



自然の解説者

春季号 [第 80 号] 2023 年 7 月 10 日

NPO 法人

ぐんま緑のインタープリター協会紙
事務局：〒371-0103 前橋市富士見町小暮
2425-28 櫻井昭寛方
電話・Fax 0274-42-2726
<http://inpuri.web.fc2.com/>
編集：総務企画部会

理事長就任あいさつ

理事長 櫻井 昭寛

この度、新しく理事長に就任しました櫻井昭寛です。

私は 2007 年に協会主催の「自然の解説者養成講座」を受講し、第 6 期生として入会しました。2010 年から事務局長としても活動してきました。

NPO 法人ぐんま緑のインタープリター協会（以下インプリ協会）の定款の(目的)には、「この法人は、森林や緑、水、自然に対する幅広い知識や技術を習得し、人と自然との架け橋ともいべき緑のインタープリター（解説者、通訳者）として活動することにより、人と自然の共生・循環型社会創造に寄与することを目的とする。」とあります。それは、「自然について学ぶこと、他の人へ伝えること。その結果として自然と共生すること。」そう考えると、現在活動している 6 つの部会（総務企画、会員研修、観音山 F P、受託協力・自然体験、普及、インプリの森）は、どれ一つ欠かせない活動と思います。インプリ協会の特徴を、ベテランの先輩が教えてくれました。

- ・ 仲間と一緒に体験しながら、楽しく自然を学べる。
- ・ 制約なく自由に楽しく活動できる。

私たちのインプリ協会はそのような特徴を持った団体です。

あらゆる社会活動は、社会からの要求に基づいて存在しています。インプリ協会もまた、社会から必要とされ、存在する団体であり、先輩方の努力により活発に活動する組織になってきました。しかし、今までの形式を固持するための組織ではなく、一般の人や協会のニーズに可能な限り対応して、必要ならば、新しい自主研究会、新しい部会を作って、インプリの活動をさらに発展させていきたいと思っています。

これからも、協会の皆さんに、楽しく積極的にインプリ活動に参加してほしいと願って就任の挨拶と致します。



校庭の樹木 25 ～チューリップのような花が咲くユリノキ～

顧問 亀井 健一

ある公園にユリノキ（百合の木）の大木があり、チューリップのような花が多数咲いていました。樹木に多年草のような花がついていることや、ユリ（草本）とキ（木本）をつなげた和名に不思議さを感じたものです。

アメリカから輸入した種子で苗木がつくられ、明治 8 年に新宿御苑や小石川植物園に植えられたのが、日本最初のユリノキと言われ、少なくとも樹齢 150 年ぐらいになります。新宿御苑の木は樹高 35m、直径 1.2m、幹周は約 4m です。東京国立博物館の庭にはユリノキの巨木があります。こちらも日本最初の木であろうと言われています。この博物館は「ユリノキの博物館」「ゆりの館」などと言われています。県内では、平成 17 年指定高崎市天然記念物の「旧岩氷小学校校庭のユリノキ」は幹周約 4m ありました。現在は高崎市倉沢町第五区公民館になっています。

ユリノキは街路、公園、校庭などに植えられるようになり、樹数は驚くほど多くなっています。強く剪定されているため、花がつかない場合もあるようです。また、花がついても葉かげに紛れて高所に咲くため、気づかれないこともあるかも知れません。

本種はモクレン科ユリノキ属の落葉高木で、北アメリカ東部原産です。樹高は 10～30m になります。葉身長 10～15 cm、半纏に似た形の葉になります。花期は 5～6 月、直径 5～6 cm のチューリップのような形の花が上向きに咲きます。

花の要素をよく見ると、雌しべは円錐状に集合して花の中央に直立し、雄しべはその周囲に多数ついています。その周りに上向きについた淡黄色の内花被片（花弁）が 6 個、その外側に下向きについた淡緑色の外花被片（萼片）3 個があります。花弁の基部にはオレンジ色の斑紋がありアクセント（図 1）になっています。

果実は 100 個ほどの翼果が集まった集合果です。翼果は扁平で長さ約 3 cm の長楕円形です。うすく扁平なために水平に回転し、少しの風でも飛ばされ、種子は風散布されます。最も外側の翼果は冬期でも落ちないでコップ状になって残っています（図 2）。標準和名はユリノキと呼ばれ、「チューリップのような花が咲くユリに似た樹木」です。別名に



図 1. 雌しべ・雄しべ及び花被片



図 2. 花・つぼみ及び翼果

葉の形からハンテンボク（半纏木）、ヤッコダゴノキ（奴胤の木）、グンバイノキ（軍配の木）があり、花からユリノキ（百合の木）、チューリップツリーなどがあります。これほど多数の通称名を持つ植物も珍しいでしょう。

〈活動報告〉



第 21 回通常総会 4 月 16 日(日) カネコ種苗ぐんまフラワーパーク 花と緑の学習館 総務企画部会

協会員 118 名が出席(内委任状 32 名)して通常総会を開催しました。関端孝雄理事長、来賓の県環境森林部森林局林政課林業イノベーション推進室の影澤圭太室長の挨拶に続いて、令和 4 年度事業並びに令和 5 年度事業案を審議し、原案どおり全会一致で承認決定されました。関端孝雄理事長の辞任に伴い、櫻井昭寛副理事長が理事長に就任しました。関端理事長については顧問として引き続き協会の活動に関わって頂きます。また役員補充で、酒井良征、中村久和子両副理事長、松村辰博理事が選出されました。(櫻井)



会員研修 1 講演会「群馬西毛地域の地質」 4 月 16 日(日) 会員研修部会

講師：中島啓治、参加者：協会員 62 名。第 21 回通常総会終了後、「ぐんま地質岩石研究会」の中島啓治氏から群馬県の西毛地域の地層や地質について学びました。後日の現場を訪れ、さらに知識を深掘りする予定です。(清水)



会員研修 2 「太田金山 春の自然観察会」 4 月 23 日(日) 太田金山 会員研修部会

講師：荒木利彦、阿部友雄、永田まり子、参加者：協会員 16 名。金山での自然観察会ですが、今回は講師未経験者とベテラン講師の 2 つの班に分かれての観察会を実施しました。(清水)

会員研修 3 「妙義山の地質」 4 月 30 日(日) 妙義山 会員研修部会

講師：中島啓治、参加者：協会員 23 名。4 月におこなった講演会の内容を現場で勉強する企画でした。妙義山の石門を巡り、その成り立ちや地質を構成する岩石などを、協会員が直接手で触れながら学ぶ貴重な体験をする有意義な時間を過ごすことができました。(清水)



会員研修 4 「赤城山自然体験メニュー研修」 5 月 7 日(日) 会員研修部会

講師：亀井健一、大谷正明、関端孝雄、浦野安孫、茂木由美、参加者：協会員 41 名
中学校生徒が赤城山で自然体験の各ポイントでの説明内容を 5 名の講師から協会員が指導を受け、本番に向けての準備をしました。当日は悪天候のため各ポイントへ出向いての模擬体験ができず、ビジターセンター内の座学となりました。(清水)



会員研修 5 「榛名山自然体験メニュー研修」 5 月 13 日(土) 会員研修部会

講師：櫻井昭寛、亀井健一、大谷正明、関端孝雄、茂木由美、参加者：協会員 28 名

赤城山でのポイント体験方式と同様な形で講師養成の勉強会を実施しました。「鹿について」の代わりに「樹木の CO₂ 吸収量」をおこないました。(清水)



大人のための自然教室開講式 5 月 14 日(日) 憩いの森森林学習センター総務企画部会、普及部会

いよいよ令和 5 年度大人のための自然教室が開講となりました。関端理事長、櫻井事務局長による協会活動説明の後、第 1 回講座が始まりました。参加者：受講生 16 名、協会員 16 名。(高橋)

観音山ファミリーパーク自然観察会 観音山 FP 部会 (吉本)

5 月 27 日(土) 「春の花さがし」 講師：関端孝雄、柳澤一朗、参加者：一般 18 名、協会員 12 名。

6 月 24 日(土) 「わたしの木みつけ」 講師：清水岩夫、吉本順子、参加者：一般 15 名、協会員 13 名。

自然体験事業①「初夏の赤城大沼を一周」 6 月 25 日(日) 受託協力部会

講師：清水岩夫、荒木昭彦、参加者：一般 18 名、協会員 17 名。

参加者からは「今まで何気なく見ていた樹木の形態や謂れなどをお聞きし、益々赤城山の自然を再認識するとともに、もっと自然観察をしたいと思いました」という感想等をいただきました。(中村)



森林整備 インプリの森部会 (酒井)

4 月 22 日(土) 参加者 14 名 インプリの森 安全祈願 森の状況確認 機材整備。

5 月 13 日(土) 参加者 6 名 サンデン本体のり面 野帳作成 9 本伐採。

5 月 27 日(土) 参加者 7 名 サンデン本体のり面 6 本伐採。

6 月 3 日(土) 参加者 5 名 サンデン本体のり面 4 本伐採。

6 月 24 日(土) 参加者 6 名 サンデン本体のり面 追加分野帳作成 4 本伐採。



〈協会の声〉 「自然といえば、やっぱり昆虫」

第20期生 細田 久美子

植物が好きでよく撮影しながら同定を楽しんでいました。ある日、植物と一緒に写っている昆虫に目が留まり、「なんだ、こりゃ？」と気になりました。気になり出したら止まらない！気付いたら昆虫の同定に時間を費やす機会が増え、今ではすっかり昆虫好きとなりました。

大人のための自然教室を受講する時、昆虫好きの事を協会員に伝えたところ、昆虫に詳しい協会員の方々が昆虫を見つけて色々教えてくださいました。とても充実した講習会となりました。現在は、観音山FP部会に所属して活動しています。樹木や植物観察の傍ら、昆虫観察もメニューとして取り入れています。昆虫に詳しい協会員を見習いながら自分も早く一人前になることを目指しています。今年度から自主研究会として「生物・昆虫部」を新規立ち上げていただきました。

いきものに詳しい方々との交流は、とても勉強になります。昆虫の生きかたを観察していると、自分の生きかたに反省させられること多々あります。だからこそ昆虫大好き！皆さま、これからも宜しくお願いします。



ウスモンオトシブミ



アカシジミ

緑の窓

インプリ交流部

第13期生 鈴木 雅美



もっと仲間を増やしたい、そして、知りたい！…
 独りでいると心細いですが、そこに仲間がいれば…
 当協会にはたくさんの会員がいるので、もっとお互いを知りたい…
 専門的な見識やスキルを持っている仲間もいるはず…

このように思うのは私だけでしょうか？

気兼ねなく、交流できる場を作りたいという思いの人が集い、自主研究会「交流部」ができました。交流部の目的は、「親睦」です。どこに行っても仲間がいたら、こんな心強いことはありません。また、自分達の活動もスムーズにできるでしょう。

5月3日インプリ広場において、12名で活動を始めたので、ご報告します。

自己紹介を兼ねたアクティビリティを行い、皆のことを知るとともに、笑顔がふえてきました。次に、皆でわいわいと「やきそば」「味噌汁」等の食事を作り、差入の「筍ご飯」等をいただきながら、和やかに歓談することができました。そして、午後は研修を兼ねて、ネイチャーゲームを楽しみました。3人一組で活動することにより、自分とは違う感性の素晴らしさを感じることができました。

参加者には概ね好評だったと感じました。次回は10月1日(日)を予定し、インプリ広場が笑顔で溢れるようにしたいと思いますので、皆様、奮って参加いただきたく、協力願います。

活動を始めたばかりの「交流部」ですが、暖かい目で見えていただければ、幸いです。

※LINEに「インプリ交流会」を作成しましたので、ご参加いただければと思います。



雑草の話 29 ノミノツヅリ

顧問 関端 孝雄

豆知識

春に散歩していると、道ばたの日当たりの良い乾燥した狭い隙間などにも、綿菓子のように霧が掛かったような白っぽい姿の雑草が並んで生えています。よく見ると、ノミノツヅリで立ち上がるのがやっとなような細い茎を分枝して横に広がり、それでも倒れず生を繋いでいます。外見からはその逞しさは推し量ることが出来ません。そのためか、ハコベと違ってこの雑草を詩に読み取る方が見当たりません。ただ、乾燥地に適した標徴種といえそうな雑草です。

ノミノツヅリ(図1)は、ナデシコ科のノミノツヅリ属に入る越年生の草本で、日本でも全土に分布しています。ノミからすると随分大きい葉だと思のですが、この葉をノミの(小さな布を綴った)衣服に見立てたそうです。

小さな葉は対生で葉柄がなく卵形をしており表面に茎と同じく毛があります(図2)。花は枝先に多数付き3~6月に白花を開きます(図3)。長い花柄に先の尖った萼片と先の丸い白色花弁をそれぞれ5個付けます。花弁は萼片よりもやや短く、この内側に10個の雄しべと雌しべ(花柱)が3個有ります。



図3. 長い花柄の先に着く花



図1. ノミノツヅリ



図2. 茎・葉に毛がある

この雑草に似た和名で、ノミノフスマが有ります。フスマ(衾)とは古い言葉で布団を指し、葉がそれに相当します。ノミノツヅリと同じ科ですが、こちらはハコベ属です。ですから、花弁はハコベと同じ5個で深く縦裂しているために10枚に見えます。この他、雄しべは数本で花柱の数も異なります。葉は楕円形の対生で葉柄がないところは上記の種と同じですが、全体に大形で毛がありません。また、生育地は水田など湿り気のある所に多いです。

やちょうのや⑩

ツバメはハチドリの間？

第1期生 粕川 昭久

日本のツバメは何種類？

前回やちょうのや⑨で「土食って虫食って渋ーい」はなんの鳥の聞き做しでしょうか」と謎かけで終了しました。これはツバメの声の聞き做しでした。

日本の6月はツバメの季節。日本で見られるツバメは何種類いるのでしょうか。ツバメ、イワツバメ、コシアカツバメ、ショウドウツバメ、リュウキュウツバメの5種類です。これには同じく日本に来るアマツバメやハリオアマツバメなどが含まれていません。ツバメはスズメ目、アマツバメはアマツバメ目で、ツバメはヒバリに近く、アマツバメはハチドリに近い仲間なのです。よく似ているのは飛ぶことに特化した《収斂進化》のためです。

ツバメの質問 次の質問に答えられますか。

1. ツバメとスズメはどちらが足が長いですか。
2. 昨年来たツバメは今年も来ますか。
3. 日本のツバメはみんな渡り鳥ですか。
4. ツバメは浮気をしますか。
5. ツバメは子殺しをしますか。
6. ヘルパーはツバメにいますか。
7. ツバメの黒色はどんな色素ですか。



写真1

1つでも答えられた方は、優秀です。

ツバメは飛ぶことに特化し、足は退化していますのでスズメより短いのです。またツバメの幼鳥が換羽するまでが約半年、成鳥の平均期間が1.6年なので昨年来た同じカップルが来るとは限らないのです。ツバメは「生き急いでいます」。そしてリュウキュウツバメは留鳥です。渡り鳥ではありません。渡り前の若「ツバメ」の集合(写真1)

ツバメは雌雄で繁殖行動しますが、双方に浮気行動は若干ですが日本でも見られません。巣の中で異親兄弟同士で殺し合い、メスを獲得するための子殺しもあります。また先に育った兄弟などが給餌に参加するヘルパーという存在も確認されています。ツバメの黒い色は玉虫のような構造色でメラニンなどの色素ではありません。ですから光のあたり具合で色が緑色などに変化します(写真2)。



写真2

ツバメは身近な存在ですが、身近な鳥類こそ分からないことが多いのです。

協会が実施する事業・研修会等)

実施日	内容	会場
7月9日(日)	前橋市委託事業①「森の探検とクラフト作り」	おおさる山乃家と周辺の森
7月23日(日)	自然体験事業②「木工を楽しもう！」	SUBARU ふれあいの森 あかぎ木の家
7月30日(日)	前橋市委託事業②「川の生き物調べと水鉄砲づくり」	おおさる山乃家と周辺の川
8月11日(金)	会員研修6「シカ食害対策ネット巻き」	赤城山・小沼周辺
	会員研修6「出張山～薬師岳自然観察」	赤城山
8月12日(土)	自然体験事業③「赤城の大冒険」(少年自然の家と共催)	赤城山・覚満淵周辺
9月3日(日)	会員研修7「玉原高原とブナ平」	玉原高原
7月8日(土)、22日(土)、9月9日(土)、23日(土)	森林整備	サンデンフォレスト・他
7月22日(土)、8月19日(土)、9月16日(土)	自然観察会	県立観音山ファミリーパーク

〈編集後記〉

令和5年度初回号の巻頭は新理事長のご挨拶です。長らく事務局長として活躍されましたが、今回それに加えての活動です。ご活躍を祈念いたします。私はようやく大役を卒業いたしました。協会員の皆様にはその間大変お世話になりましたが、この場をお借りして感謝申し上げます。協会紙も限られた紙面ではありますが、編集に当たってはより充実した内容が盛り込めますよう尽力しております。

(関端)